

# 核廃絶寸前 ～レイキャビク首脳会談の教訓～

吉田文彦  
長崎大学 核兵器廃絶研究センター (RECNA)  
2019年1月26日



## アウトライン

### (1) レイキャビクまでの歩み

- ・冷戦の緊張関係がピークに
- ・ゴルバチョフの登場
- ・チェルノブイリ原発事故

### (2) 米ソのレイキャビク首脳会談（1986年10月）

- ・核廃絶合意にどこまで迫ったのか
- ・歴史的教訓は何か

### (3) これから大事なこと

- ・「次の政策」の準備
- ・核兵器への「悪の烙印」と「非正当化」

## レイキャビクまでの歩み（1）

### ●冷戦の緊張関係がピークに。

1983年だけを見ても・・・

1. レーガンの（ソ連は）「悪の帝国」演説（3月）
2. レーガンのSDI（戦略防衛構想）演説（3月）
3. ソ連戦闘機による大韓航空機撃墜（9月）
4. ソ連のシステム誤作動で、あわや核戦争（9月）
5. 米軍などによる欧州での核戦争を想定した軍事演習（11月）
6. 米国が欧州にINF（中距離核戦力）配備開始（12月）

## レイキャビクまでの歩み（2）

- ゴルバチョフの登場（1985年3月）
  - ・ 核軍拡が経済的に限界に達していたソ連
  - ・ 核軍縮・廃絶に意欲的なゴルバチョフ
  - ・ 米ソとも首脳が核廃絶派に  
レーガンは日本の国会で、「核戦争に勝者はなく、決して戦われてはならない」と演説（1983年11月）。
  - ・ この言葉が1985年11月のレーガン・ゴルバチョフによる初の首脳会談の共同声明にほぼそのまま盛り込まれた。
- チェルノブイリ原発事故
  - ・ 1986年4月に発生。ゴルバチョフが核戦争を「疑似体験」し、核軍縮を急ぐ。

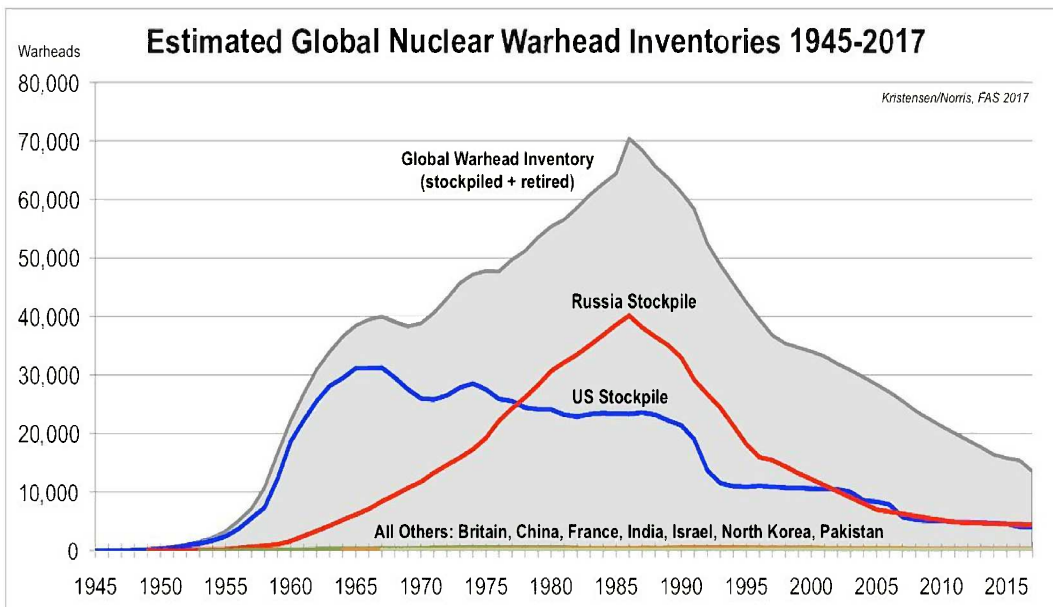
## レイキャビク（1） 首脳会談（1986年10月）への道のり

- (1) ゴルバチョフの登場（1985年3月）
  - ・ 米ソとも首脳が核廃絶派に。
  - ・ レーガンは日本の国会で  
「核戦争に勝者はなく、決して戦われてはならない」と演説（1983年11月）。
  - ・ この言葉が1985年11月のレーガン・ゴルバチョフによる初の首脳会談の共同声明にそのまま盛り込まれた。
- (2) チェルノブイリ原発事故（1986年4月）
  - ・ ゴルバチョフが核戦争を「疑似体験」し、核軍縮を急ぐ。
- (3) レイキャビクでの緊急会談（1986年10月）
  - ・ ゴルバチョフの提案で急ぎよ、決定。

欧州全域が中距離核の射程に  
(ロシア国境からの距離のイメージ)



Estimated Global Nuclear Warhead Inventories 1945-2017





Courtesy Ronald Reagan Library

## レイキャビク (1) 交渉の争点

### 1. レーガン

- ・先制攻撃能力の高いソ連のICBM（大陸間弾道ミサイル）を縮小させる。やがては、**戦略防衛構想（SDI）によるミサイル防衛網で、核兵器を無力化する。**
- ・米国の圧倒的技術力がソ連を抑えるカギと認識。「軍拡圧力による軍縮」を実践。
- ・欧州同盟国が警戒したソ連・中距離核戦力(INF)のグローバルゼロを提案。

### 2. ゴルバチョフ

- ・悪化するソ連経済は軍拡競争に耐えきれない。ペレストロイカ（改革）のために軍縮が必要。
- ・**米国がSDIの研究を最小限に抑えるなら、ICBMを含む戦略核全廃も可能。**
- ・INFはソ連にも脅威で、欧州配備分は全廃も可能。

## レイキャビク (2) 両首脳の本音

### 1. ゴルバチョフ

- ・チェルノブイリ体験から、核軍縮は喫緊の課題。レイキャビクで大きな前進が必要。
- ・**SDIに対抗する手段はあるが、SDIの研究開発が進んで、宇宙配備型の強力な攻撃兵器が開発されることを警戒。**
- ・SDIの厳しい規制に挑む。

### 2. レーガン

- ・**核廃絶はあくまで、SDIによる「核の無力化」が前提。SDIをつぶすような提案には応じない。**
- ・レイキャビクは、翌年の米国での首脳会談への「場つなぎ」。ゴルバチョフは夫人同伴だったが、レーガンは一人旅。
- ・随行スタッフも米国は約30人。ソ連は約300人。

### レイキャビク (3) 交渉の進展

(1) ソ連側の譲歩による一致点の増加

→→資料。

→→目立つゴルバチョフの積極姿勢。

(2) 残る争点

- ・第二段階で廃棄すべき戦略核の対象の範囲。
- ・SDIを研究室に閉じ込めるかどうか。
- ・パッケージ論を維持するかどうか。



Courtesy Ronald Reagan Library

## レイキャビク (4) 最終会合①

**ゴルバチョフ** 米国案の中における最初の5年間と次の5年間は、表現が同じであるべきだ。もし戦略攻撃兵器の50%削減を（前半で）言うのであれば、あとの5年間で残りの50%の戦略攻撃兵器の廃棄をするようにしなければならない。

**レーガン** もしそれを望むのなら、それで構わない。

**シュルツ** すべての戦略的攻撃兵器の廃棄と言った場合には、より射程の短い弾道ミサイルは含まれない。これについてもここで決定的な手段を講じておくべきかと思われる。

**ゴルバチョフ** 射程距離が1000キロ以下のミサイルについては凍結し、将来どうするかの交渉を開始する。この点は、INFに関する合意で対応する。

## レイキャビク (5) 最終会合②

**シュルツ** INFと短距離ミサイル(射程距離が1000キロ以下)については、5年間ずつの2つの期間について議論したことがない。もしも5年ごとに期間にふたつに区切るやり方を適用することで合意できれば、(2つめの)期間の終了までにすべてのミサイルを廃棄できるようになる。

**ゴルバチョフ** 短距離ミサイルを含むすべてのミサイルについて合意できる。しかし、ここでは、ABM条約との関連で、戦略攻撃兵器を交渉している。我々の間に不一致があるとは思えない。双方の合意を反映する方法を見出すことに力点を置くべきだ。

**シュルツ** だからこそ、1996年末までに、すべての攻撃的戦略兵器とすべての攻撃弾道ミサイルを米ソとも破棄するよう提案している。



## レイキャビク (6) 最終会合③

**レーガン** 聞きたいことがある。私は非常にいいアイデアだと思っているのだが、こんな考えはどうか。ふたつの五年間の時期の最後（10年後）には、**すべての核爆発装置を廃棄する**というものだ。その中には、爆弾も、戦場でのシステム、巡航ミサイル、潜水艦兵器、中距離システムなども含まれる。

**ゴルバチョフ** それら**すべての兵器を（廃棄の）リストに入れても構わない。**

**シュルツ** ならば、**そうしましょう。**

**レーガン** 10年の期間の終りまでにすべての核兵器を廃棄することで合意できたら、米ソのジュネーブの交渉代表団に委ねて、あなた（ゴルバチョフ書記長）が**訪米の際に署名できる（核廃絶）条約を準備させられる。**

**ゴルバチョフ** なるほど、それで結構だ。**（核廃絶で）合意できる好機がやってきた**ということだ。

## レイキャビク (7) 最終会合④

**ゴルバチョフ** **ABM条約は強化される必要があり、合意文から研究室（に限定）への言及をはずすわけにはいかない。研究室の問題は、根本的な問題**である。

**レーガン** **同意できない。**

**ゴルバチョフ** （米国の主張は）宇宙兵器を研究室から外に持ち出し、大気中や宇宙への配置を可能にするものだ。

**レーガン** ABMを宇宙に配備する権利など求めてはいない。

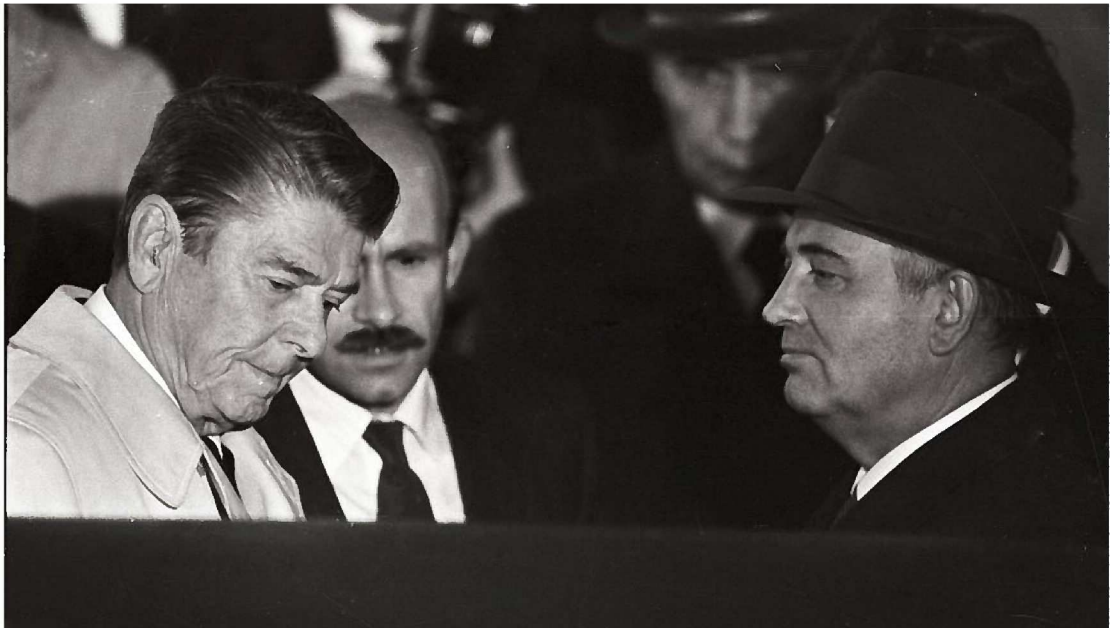
**ゴルバチョフ** これがあなたの**最終的な立場なのか**。もしそうならば、会談はこの時点で終わることにしよう。

**レーガン** そうだ、**最終のものだ。**

**ゴルバチョフ** これまでのやりとりから判断すると、**米国はSDIの実験実施を研究室だけでなくその外、すなわち大気中や宇宙で実施する可能性を担保しておきたいのだと判断せざるを得ない。** そうだとするならば、二人が合意に達することなどできない。



Courtesy Ronald Reagan Library



REUTERS/Denis Paquin

## レイキャビク (8) 総括① ゴルバチョフの判断ミス

- (1) 宇宙兵器への過度な恐怖心
  - ・当時の米国には開発計画などなかった。
  - ・ゴルバチョフの「一人相撲」。
- (2) ABM条約で宇宙兵器を規制する誤り
  - ・あくまでミサイル防衛システムを規制する条約。
  - ・宇宙兵器配備禁止条約、SDI共有条約で対応すべきだった。
- (3) パッケージ論にこだわり過ぎた
  - ・直前の準備会合では、パッケージ論をとらず。
  - ・直後の事後対応会合で早くも、パッケージ論をおろす準備。
  - ・パッケージ論の活用戦略を誤った。

## レイキャビク (9) 総括② レーガンの判断ミス

- (1) SDIに抱き過ぎた「夢」
  - ・レーガン政権内部でもSDIを信じた幹部は少数派。
  - ・それでも「夢」が強く、大統領側近たちは口出しできず。
- (2) レイキャビクへの準備不足
  - ・ゴルバチョフとは対照的に、「勝負の時」との覚悟がなかった。
  - ・土壇場になるまで新提案を出さず、時間切れを迎えた。
- (3) 十分ではなかった指導力
  - ・直後の中間選挙で共和党敗北が予測され、現に敗北した。
  - ・直後に不祥事（イラン・コントラ事件）が発覚し、政権基盤弱体化。
  - ・ゴルバチョフへの譲歩に踏み切ることを、躊躇した。

## これから大事なこと①

### 「次の政策」の準備

- (1) 核廃絶をめざす政治指導者がいれば、世界は変えられる。
- (2) 核廃絶をめざす政治指導者の登場を促す、国内外の市民活動が極めて重要。
- (3) オバマ大統領の元側近の言葉  
人々が核兵器に対する考え方を換え、それを反映する形で核廃絶に情熱を傾ける政治指導者が出てきた時に、「こうすれば核廃絶できます」という構想、政策を提示できるように準備しておく必要がある――

## これから大事なこと②

### 米朝首脳会談への教訓

- (1) 首脳同士の決断で事態打開は可能
- (2) 首脳の国内政治基盤が強いことが重要
- (3) 最終的な妥協策のタイミングよく提示する判断
- (4) 補佐役の適切なアドバイス
- (5) 朝鮮半島非核化を北東アジアでの最重要課題に

## これから大事なこと③

- (1) レイキャビクから核兵器禁止条約の時代へ
- (2) 核兵器への「悪の烙印」 (Stigmatization)
  - ・ 人道的アプローチから、核 = 邪悪な兵器であるとの考えを広め、定着させていく。
- (3) 核兵器の「非正当化」 (Delegitimazation)
  - ・ 核抑止への依存は安全保障政策として合理的ではないこと、核抑止以外の代替手段の方が、安全保障政策として信頼できること等を分析・理論構築して、政策転換を促す。

## これから大事なこと④ 完

### オバマ氏の広島演説

- ・ 科学によって、私たちは海を越えて通信を行い、雲の上を飛び、病を治し、宇宙を理解することができるようになりました。しかし、これらの同じ発見は、これまで以上に効率的な殺戮の道具に転用することができるのです。
- ・ 現代の戦争は、私たちにこの真実を教えてくれます。広島がこの真実を教えてくれます。科学技術の進歩は、人間社会に同等の進歩が伴わなければ、人類を破滅させる可能性があります。原子の分裂を可能にした科学の革命には、道徳上の革命も求められます。

ご静聴、ありがとうございました。